

# 「自由で開かれた国際秩序の強靱性—米国、中国、欧州をめぐる情勢とそのインパクト」

## サブ・プロジェクトⅢ：「混迷する欧州と国際秩序」

### プロジェクトの概要

これまで相対的に安定していた欧州を通貨危機、難民危機など度重なる危機が襲っている。これらの危機の中、グローバル化の浸透に対する先進国の人々の不満や反感、これを背景としたポピュリズムの高まりにより、排他主義的な方法で自国の利益を保護しようとする動きが強まりつつあり、英国の EU 離脱、2017 年に実施されたフランス大統領選、ドイツ議会選挙等は欧州の混迷にさらに拍車をかける可能性が存在している。こうした中で、欧州が内向きとなり、自由で開かれた国際秩序の維持に当たって関心とリソースを向けにくくなる兆候もうかがえる。これらの問題意識の下、欧州統合プロセスの停滞の可能性、欧州国際関係における内政問題の顕在化、域外問題の国内化による統合理念の動揺について分析することが現代世界の動向を占う上で非常に重要となっている。

このような問題関心から、本研究プロジェクトは欧州で生じている大きな構造変動の趨勢を分析し、将来の欧州の在り方を展望する。市場統合から政治・外交・安全保障分野の統合を推進してきた EU にとって、英国の離脱で頂点に達した近年の危機はこれまでの統合プロセスの意義の再考を迫っている。また、グローバル化やシリア内戦が今日の欧州各国の政治意識を大きく変化させていることにみられるように、欧州域外の問題が欧州域内に及ぼす影響は増している。これらの問題を踏まえたうえで、人権や民主主義、人の自由移動といった欧州がこれまで主導してきた価値を維持できるのか検討する。

この検討を通じ、自由で開かれた国際秩序を守る立場から、同様の価値を共有する重要なパートナーである日本と欧州が国際社会で果たすべき役割に関して知見を提供することが本研究会の目的となる。

### 研究体制

#### 主査

遠藤 乾（北海道大学教授）

#### 委員

池本 大輔（明治学院大学教授）

伊藤 武（専修大学教授）

合六 強（二松学舎大学専任講師）

仙石 学（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授）

鶴岡 路人（慶応大学准教授）

安井 宏樹（神戸大学教授）  
吉田 健一郎（みずほ総合研究所上席主任エコノミスト）  
吉田 徹（北海道大学教授）

#### 委員兼幹事

相 航一（日本国際問題研究所所長代行）  
中川 周（日本国際問題研究所研究調整部長）  
佐藤 俊輔（日本国際問題研究所研究員）

#### **研究会の実施状況**

##### 第一回会合：

日時・場所：2017年6月19日、於当研究所  
テーマ：研究プロジェクト趣旨説明、分担確認およびスケジュール共有

##### 第二回会合：

日時・場所：2017年10月26日、於当研究所  
テーマ：「フランスにおけるポピュリズムとその含意——〈アノマリー〉の連鎖と帰結」  
「2017年総選挙後のイギリス政治とEU離脱交渉の行方」  
「欧州危機とドイツ—2017年ドイツ連邦議会選挙とその影響—」

##### 第三回会合：

日時・場所：2017年11月24日、於当研究所  
テーマ：「2017年10月チェコ下院選挙：ヴィシエグラード諸国との比較の観点から」  
「ユーロ圏経済の現状と展望」

##### 第四回会合：

日時・場所：2018年3月19日、於当研究所  
テーマ：「イタリアの2018年総選挙と政治情勢」  
「オーストリア2017年選挙と国際情勢— 国民議会選挙の結果と背景、および、それが国際情勢に及ぼす影響についての考察」

##### 公開シンポジウム「揺らぐ欧州の統合と国際秩序」：

日時・場所：2018年3月19日、於当研究所  
テーマ：「先進国リスクの時代における国際協調」  
「Brexit後の欧州安全保障」